

2020年度 自己評価報告書

星稜高等学校

具体的取り組み	評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
教務課			
1. ICTの活用し、業務の効率化をさらに進める。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	概ねICT化が進んでおり、業務の効率化が図られている。今年度はWeb出願や新教務システムが納品され、Web出願については問題なく運用できた。引き続き、教務システムの稼働に向けて取り組みたい。
2. ミスが起こらない環境づくり、システム運用を行う。また、情報共有を確実に言い仕事の無駄をなくす。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	例年よりも件数自体は少なかった。単純な入力ミスがほとんどであったので、入力後は確実に確認するよう徹底したい。
進路指導課			
1. 生徒、保護者の進路希望を把握し、正確な進学情報を共有できる環境を整える。説明会等に積極的に参加し、各学年・コースに応じた最新の進学・入試情報を得て、教職員と共有できるようにする。	満足度指標 A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満	D	学校評価アンケート「入試情報などの進学指導に必要な情報は、生徒のみならず保護者に対しても十分に提供されている」の集計結果より、「当てはまる」および「どちらかと言えば当てはまる」が全校平均で57%であった。校内Web連絡システムを活用し、教職員に正確な進路情報を迅速に伝えるとともに、Classiを用いて保護者に直接情報を発信していきたい。
2. 生徒、保護者の進路希望が実現するように努力する。難関国立大学、難関私立大学、医学部医学科、地元国公立大学の合格者数を増やす。	成果指標 A：3項目以上が増加 B：2項目が増加 C：1項目が増加 D：4項目が減少	C	4月1日現在、難関国立大学14名→1名、難関私立大学158名→120名、医学部医学科3名→3名、地元国公立大学83名→85名である。3年連続国公立大学医学部医学科2名合格を来年度も継続したい。
3. 生徒、保護者の進路希望で最も多い国公立大学の合格者数が増えるように努力する。現役での国公立大学合格者150名以上を目標とする。	成果指標 A：150名以上 B：100名以上 C：50名以上 D：50名未満	B	4月1日現在、現役生の国公立大学合格者数は113名である。共通テストで高得点を取るための指導に加えて、早期に記述力の向上が見込める仕組みづくりをしていきたい。後期日程試験まで受験するような最後まであきらめない生徒へのサポートを継続していく。
生徒指導課			
1. あいさつ運動を更に推進することにより生徒の自発的な挨拶を促す。教職員や外部の方々との爽やかな交流を通して、笑顔の溢れる学校生活の場を築く。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	アンケート結果による自己評価とは別に、自発的に挨拶がまだまだ難しい現状もあり、個々の生徒が、あいさつをさらに自然とできるよう、運動を進めていくことが必要である。【自分から挨拶ができていますか】：できている58.0%、概ねできている30.9%、やや不十分6.4%、不十分0.8%
2. 通学マナーを向上させながら、地域に貢献できる指導を目指す。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	アンケートではよい結果だが、コロナウイルス感染予防のマスク装着や、自転車通学者や公共交通機関でのマナーについての苦情の連絡が度々あった。常にマナーを意識する指導が必要である。【通学マナーを守ることができていますか】：できている78.2%、概ねできている17.1%、やや不十分0.7%、不十分0.1%

具体的取り組み	評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
総務課			
<p>学校諸行事の運営が円滑に進み、支障のないように、各学年、各課と綿密に連絡を取り、事前準備を進める。</p> <p>入学前オリエンテーション／入学式／後援会総会／保護者対象説明会／保護者懇談会／推薦入試・一般入試／専願合格者説明会／卒業式／入学説明会／机椅子の搬出</p>	<p>努力指標</p> <p>A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>	B	<p>様々な行事が中止、内容の変更などがあったものの、概ね良好に実施できた。補助生徒がいないうちでの事例については、多くの職員の協力が得られ円滑に実施できた。3・4月と重要な行事が続くので、準備を進め、円滑に実施できるようにしたい。</p>
特活課			
<p>1. 生徒会活動および委員会活動において生徒の自主性・主体性を重んじ、活発に活動が行われるように支援する。また、3年目となる応援委員の活動をより活発化して、全校応援等でまとまりのある応援ができるように活動していきたい。</p>	<p>努力指標</p> <p>A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>	A	<p>生徒会活動は、執行部の生徒が自ら企画した挨拶運動や清掃活動など新たな取り組みを行うことができた。委員会活動も主体的に取り組むことができた。また、お昼休みの放送を利用した情報配信もスタートし、生徒の学校生活の一部となってきた。</p>
<p>2. 文化祭食品テナントにおいて各クラスが衛生管理をしっかりと行うように指導し、食中毒予防に努める。職員および食品テナント実施クラスに講習会の受講を義務付けることによって意識向上を図りたい。</p>	<p>努力指標</p> <p>A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>	評価なし	<p>文化祭は、新型コロナへの感染拡大の影響で食品を扱うテナントを中止した。</p>
<p>3. 各部がそれぞれの目標を設定し、目標に向かって努力できる環境を整える。部活動加入率70%以上を目指し、文武両道の実現を図る。</p>	<p>成果指標</p> <p>A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	A	<p>今年度6月時点での部活動加入率は75.1%で、昨年度71.8%を超える結果となり、目標を達成した。新入生への部活動PRを効果的に行うと共に、各部が大会等の目標設定とその達成へのプロセスを大切にすることで、より魅力的な活動となるよう支援したい。</p>
<p>4. 生徒自身が主体的に健康な生活を送れるような実践力を育てる。(ヘルスプロモーション) 自己の健康課題について認識させ、個別の保健指導を実施する。視力・聴力および歯科検診において昨年度以上の病院受診率を目指す。</p>	<p>成果指標</p> <p>A：50%以上 B：45%以上 C：40%以上 D：40%未満</p>	A	<p>各検診の受診率は検尿85%、内科検診94%、胸部X線と心臓検診は100%、視力/聴力57%であった。新型コロナの影響で歯科検診は未検。受診率が低下した項目も同様の影響が考えられる。視力・聴力は18%向上し、受診勧告者全体受診率(視力、聴力、歯科)は57%となった。来年度は保健だよりによりクラスごとの受診率を掲載し、意識向上に繋げていく。</p>
広報課			
<p>世界で活躍する個性豊かな星稜生に“成長する”ことをイメージした「GROW! SEIRYO」のスローガンを、「GROW! ツリー」というシンボルを用いて多方面で表現・発信し続けていく。一貫理数コース、ICT教育、土曜GSPの取り組みなどの周知に加え、今年度よりスタートするWeb出願や専願推薦入試、また総合寮の完成も含めて、ハード面もソフト面も進化し続ける星稜の今をタイムリーに伝え、北陸私学の雄としてのブランディングを確固たるものとした。</p>	<p>努力指標</p> <p>A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった</p>	A	<p>通常の生徒募集活動に制限がかかる中、オンライン学校説明会としてYouTube上の広報活動を活性化させ、理数コース、ICT教育、GSP、今年度新たに導入したWeb出願や推薦入試、また総合寮建設について広く訴求できた。加えて、各部活動の様子を掲載する動きも高まり、新しい広報ツールの発見となった。また学園財務課の協力を得て、総合寮の至る所にGROW! ツリーを採用し、その完成をより印象深く伝えるため、学校関連では全国初とも言えるアニメーションTVCMを今年度内で完成させることができた。</p>
<p>《次年度における校務改善に向けて》</p> <p>2022年度に本格導入となる新学習指導要領を、本校独自の教育活動における新しい大綱的基準となるよう受け止め、段階的に準備する中でコロナ禍となったが、教育と校務のICT化を更に推進し、マイクロソフト Teams を柱としたオンライン授業体制を確立することで、なんとか乗り切ることができた。合わせて、専願による積極的入学希望者の獲得を目指し、A・B・Pの3つのコースで新たに推薦入試を導入し、Web出願のシステムも万全に整備することができた。引き続き、感染症対策のロードマップを随時更新しながら、安全な対面授業を実践し、内外問わず愛され、評価される学校であり続けたい。</p>			